

第1回「日本語大賞」

テーマ 「人と人をつなぐ日本語」

中学生の部 優秀賞 受賞作品

「おばあちゃんの暖かい言葉」

大阪府

大阪教育大学附属池田中学校 1年

榎田 美緒

おばあちゃんの暖かい言葉

大阪教育大学附属池田中学校 一年

槇田 美緒

私のおばあちゃんは、今七十七歳です。私の住む大阪府から遠く離れた富山県に住んでいます。だから、めったに会えないけれど、手紙や電話でよくやりとりをしています。

今年のお盆休み、二年ぶりに母と富山の祖父母の家へ帰省しました。私はこの二年間で十センチくらい身長が伸びました。しかし、二年ぶりに会う祖母は背中が丸くなっていて、私にはなんだか小さく見えました。

「遠い所、よう来たねえ。長旅、疲れたろう。さあ、ゆっくり休まれ」

久しぶりに聞く富山の方言の優しさで、少し緊張していた私の心はすぐに和んで、ほつと暖かい何かに包みこまれるような気持ちになりました。

祖母は最近、心臓の調子がよくありません。私はそれを知っていたので、できるだけ祖母の助けになるように心がけました。普段、私は家の手伝いをあまりしないので、手際がよくありません。それでも、私なりに一生懸命手伝うと、祖母はともうれしそうに

「ありがとう。いつの間にか大きくなって、しっかりしたお姉さんになったねえ」

と、私をほめてくれます。祖母のやわらかな言葉は私を幸せな気持ちにしてくれます。

いとこと会ったり、みんなで食事をしたりするうちに、あつという間に時は過ぎていきました。

いよいよ、大阪へ帰る時になりました。祖母は、自分よりもずっと背が高くなった私を見上げるようにして、

「たくさんお手伝いしてくれてありがとう。しばらく会わん間に、立派に賢くなったね。」

いい孫に囲まれて、おばあちゃんは幸せや。美緒ちゃんは私の自慢の孫や」

と言ってくれました。私はその素朴な言葉に胸がいっぱいになって、思わず涙があふれました。

この一年間、中学受験の受験勉強に追われていた私には、この言葉のように、私を一人の人間として価値を認めてくれるような言葉はありませんでした。受験勉強中は、常に他人と比較されて、テストの点数だけが私の価値だと思っていました。だから、私自身の存在を大切に思ってくれるこの祖母の言葉は、とても私の心に響きました。そして、相手の

ことを心から大切に思って言った言葉は、人を感動させたり、人の心を開かせたりすることに改めて気付きました。

言葉には、地方特有の方言の暖かさや、それを使う人の気持ちがよくあらわれます。特に日本語は方言が多く、表現がたくさんあるので、自分の気持ちが詳しく相手に伝わりません。世界が狭くなり、国際化される今日ですが、人と人との心をつなぐ上で日本語はかなり優れていると思います。その日本語を母国語としていることを誇りにして、次世代にも素晴らしい日本語を伝えていかなくてはなりません。日々使っている日本語が、人と人の心のかげ橋となることをしっかりと心にとめて過ごしていきたいと思います。

最後に、もう一度祖母について。祖母はいつも私にこう言ってくれます。

「帰りたくなったらいつでも帰ってこられ。ここは美緒ちゃんのうち（家）やから。富山は美緒ちゃんのふるさとやからね」

どんな時でも、自分を迎え入れてくれる場所があるんだ、と思うと気持ちが楽になります。また明日から頑張ろう、と元気が出ます。

祖母の暖かい言葉は私の宝物です。祖母にはいつまでも長生きしてほしいと心から願っています。